



英語辞書で harmony (ハーモニー) と調べると「行為・考え・感情等の調和、一致、和合」とあります。そして実はこのハーモニーという言葉自体に「平和」という意味があるそうです。英語圏の人にとって周知の事実なのかもしれませんが、私にとって今回調べて初めて知った事でした。去年から日本の元号は「平成」から「令和」になりました。各国メディアがその事を自分の国に報じる時、イギリスでは令和の令は命令の令と報じ、ある国では秩序の事だと報じたりしました。そこで外務省では英語で説明する時、令和の事を「beautiful harmony」(美しい調和)と説明しました。人々の美しい調和の中で、文化は生まれ育つという意味を込めてこの年号が決まったそうですが、その中に平和がある事を切に願うばかりです。

そんな調和を願いながら足並みがそろわないという事が私達の身に起こります。CA 時代集会後「皆でどこ食事行こう？」と話し合った時に 30 分たっても何処へ行くか決まらなかったことがあります。皆が和食、洋食、ハンバーガー、ラーメンと口々に出した意見がまとまらなかったからです。そもそも意見の違いというものは、私達に個性が与えられているので必ず起こります。しかしそこで他人にイライラしたり、その時間が無駄に感じてしまう時があります。物事を皆で決める大切さよりもその煩わしさが勝った時、人は話し合う事を止めてしまします。北九州シオン教会ではコロサイ書 3 章 15 節が年間の標語として与えられました。キリストの平和が教会に宿る為、私達が招集められたことがこの個所から知ることが出来ます。それは命令による一致ではなく、厳しい秩序による一致でもなく、キリストの平和に

よる一致です。キリスト者にとって、この一字によって、その足並みはそろっていくのです。

つまり私達はキリストの献身、キリストの忍耐、キリストの柔和を学ぶため主に集められた神の家族です。それはただの我慢や修行、自己犠牲とは異なります。私達の犠牲、私達の労苦、私達の忍耐を最もよく知られるお方、イエス様は皆さんのどんな小さな働きも良くご存知です。「何故、いつも私ばかり?!」「あの人はいつも自分勝手!!」「もう知るもんか!」はキリストの平和を知るチャンスです。そのような中を通じて、キリストの犠牲の尊さを学びます。イエス様はそんな私達を愛し、正しい道へ導かれるように十字架に掛かれたのです。そう、一番忍耐され、私達の足並みがそろうように手を引かれるのはいつだって主、イエス様なのです。そのようにしてお互いが学んだ謙遜や柔和、尊敬、そして愛と平和が教会に絶妙なハーモニーを生み出すようになるのです、共に主を述べ伝えていこうと。偉大なる主の手に引かれて前進してまいりましょう。

